

(様式第4号)

調査研究完了報告書

| | | | | | | | | | |
|------------|---|-----|-----|--------|--------|--------|--------|-------|--------|
| 調査研究課題 | 「野生動物における人獣共通感染症の網羅的病原体解析」に関する試験研究 | | | | | | | | |
| 担当者 | 樫村諒、石川莉々子、新堀もなみ、小室慶子、大久保朝香、大澤修一、上野 恵、阿部櫻子 | | | | | | | | |
| 研究期間 | 平成28年度～令和4年度 7年間 | | | | | | | | |
| 目的 | 本件の有害鳥獣として捕獲された野生動物（主にイノシシ）及び媒介動物が保有する病原体を網羅的に探索し、その実態（種類・汚染状況等）を把握する。実態調査の結果、人に重篤な症状を示す病原体の簡便かつ短時間で実施可能な検査法の開発するため、検査法構築の技術を習得する。 | | | | | | | | |
| 要した経費 | (単位：千円) | | | | | | | | |
| | 年度 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 計 |
| | 経費 | 630 | 630 | 11,558 | 13,795 | 12,407 | 11,077 | 7,518 | 57,615 |
| 得られた成果 | <ul style="list-style-type: none">・次世代シーケンサー（NGS）による病原体検査法及びマダニ検体からの遺伝子抽出法を確立し、人獣共通感染症に起因する病原体やリケッチア症に起因する病原体が検出された。・イノシシから日本脳炎やE形肝炎に対する抗体を検出した。・病原体タンパク質の合成技術及びモノクローナル抗体を用いた検出法の構築技術を習得した。 | | | | | | | | |
| 成果の普及・活用方法 | <ul style="list-style-type: none">・成果について、学術誌への投稿及び学会発表等により報告を行った。 | | | | | | | | |
| 残された課題・問題点 | <ul style="list-style-type: none">・今回構築した検出法はヒトパレコウイルスを標的としているため、他の病原体を標的とした応用法について、検討していきたい。 | | | | | | | | |

※ 研究成果等の資料があれば添付すること。

完了評価結果報告書

令和 5年9月21日

衛生研究所長 殿

茨城県衛生研究所評価委員会
委員長 木村 博一

| | |
|--------|----------------------------------|
| 調査研究課題 | 野生動物における人獣共通感染症の網羅的病原体解析に関する試験研究 |
|--------|----------------------------------|

| 評価項目 | 評価 | 意見 | 備考 |
|----------------|---|--|----|
| ①調査研究の 妥当性 | 5, 5, 5, 5 , 5, 3, 4 平均評価点 4.6 | ・本研究の意義は妥当である ・費用対効果については、今回の報告ではわからない。 | |
| ②目標の達成度 | 4, 5, 5, 5 , 5, 5, 5 平均評価点 4.9 | ・十分達成できている ・県民への情報提供、注意喚起をぜひ行ってほしい。 ・データ解析・加工をさらに工夫すべきである。 | |
| ③成果の意義, 達成度 | 4, 5, 5, 5 , 5, 5, 5 平均評価点 4.9 | ・E型肝炎の罹患歴やダニにおける紅斑熱群リケッチア遺伝子の検出など、人獣共通感染症のリスクが明確となり、活用性が高い。 ・SFTS 遺伝子は検出されなかったという成果は、新規調査に応用される。 | |
| ④総合評価 | 4, 5, 5, 5 , 5, 5, 5 平均評価点 4.9 | ・本県の野生イノシシや捕獲マダニが、人獣共通感染症に関与する病原体（日本脳炎、E型肝炎、紅斑熱群リケッチア）に感染していることが確認され、食中毒や感染症のリスクの啓発に有用な調査である。まずは、保健所等の行政関係ならびに医療関係者に広く周知していただきたい。 ・野生動物との課題名であるが、イノシシが主となっており、行動範囲が広いほかの野生動物でも検討があるとさらに良かった。 ・担当者が異動により研究内容や方法などが変更になったようであるが、今までのデータを論文化し、公表すべきである。 | |

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好

| | | | |
|---------------|--------------|--|--|
| 追跡評価実施の 要否 | 要：1人 否：6人 | 担当者の異動により研究内容や方法などが変更されているが、今までのデータを論文化し、公表すべきであることから、追跡評価実施を要と判断した。 | |
|---------------|--------------|--|--|